

1. 第1種委員会：社会人連盟

<p>2022年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・とちぎ国体を円滑に運営する。 ・県内リーグチーム強化。 ・各種大会の運営力の向上。 ・とちぎ国体で成年男子チームが優勝し、強化・指導の取り組みを継続する体制づくりを行う。 ・県1部リーグから関東リーグへのチーム昇格 ・コロナ禍でのチーム継続を助ける取り組み ・新規チーム数を増やすための取り組み ・登録チーム内のC級・B級指導者を増やす取り組み ・登録チーム内の3級審判員を増やす取り組み (2022年度から1部リーグチーム、2023年度から2部リーグへの帯同義務化を目指す) ・新型コロナウイルス感染症拡大防止への取り組み <p><数値目標> とちぎ国体で成年男子チームが優勝する。 登録チーム内の指導者・3級審判員を1名以上増やす</p> <p><スローガン> チーム社会人(1種)の取り組み</p>
<p>2022年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県内大会の活性化(コロナ禍で中止した事業の再開) ・全国大会の運営 ・Jチーム・関東リーグチームとの連携による国体チーム及び県内チームの強化 ・MC資格保有役員はマッチコミッショナーを2試合以上担当する。 ・県協会・他種別と共同で事業を実施し新規・継続選手数を増やす。 ・トーナメント大会参加数継続のためのサポート活動 ・県内上位リーグから指導者・3級審判員を増やす活動を実施する。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し安全な大会運営を行う。 ・国体成年男子チームの強化練習会を月に1回以上行う。
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国社会人サッカー選手権大会 ・全国社会人サッカー選手権大会関東予選 ・とちぎ国体 ・県内トーナメント大会・リーグ戦 ・J2・関東リーグチームとの連携・協力

2. 第2種委員会：高校連盟

2022年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高校サッカーの活性化（男女） ・本県代表校の活躍（男女） ・栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化 <p><数値目標> 部員数 3,000人 関東大会・全国大会優勝</p> <p><スローガン> サッカー環境の整備（気持ちよくサッカーができるように）</p>
2022年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制の充実 ・全国高校サッカー選手権大会栃木大会 ・審判員の充実 ・栃木県ユースサッカーリーグU-18のよりよい運営 ・本県代表の関東・全国大会入賞 ・プレミアリーグ・関東プリンスリーグへの参入 ・とちぎ国体に向けた大会運営能力の向上
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・審判研修会及び講習会の開催 ・高校連盟の試合途中経過・結果速報 ・各大会における技術・記録係等の研修 ・本県代表の全国大会入賞及び関東プリンス運営の協力体制づくり ・ユース審判員の育成及び活用

3. 第3種委員会：中学連盟

2022年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・競技環境の充実 ・指導者の質の向上 <p><数値目標></p> <ol style="list-style-type: none"> ① U-15リーグに90%以上のチームの参加 ② 公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会への参加5名以上 ③ M4による指導者講習会への参加率85%以上 ④ マッチコミッショナー・ウェルフェアオフィサーの10名以上の養成 <p><スローガン> より良い育成環境を目指して</p>
2022年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・リーグ戦を軸とした年間カレンダーの見直しとリーグ再編 ・指導者養成事業及び指導者研修 ・各種大会レギュレーションの見直し
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15リーグ (1部リーグ・2部リーグ・3部リーグ・4部リーグ) ・公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会 ・各地区での指導者講習会 ・マッチコミッショナー・ウェルフェアオフィサー養成講習会

4. 第4種委員会：少年連盟

<p>2022年度の活動目標</p>	<p>【事務局】①新型コロナウイルス感染症に対応した連盟運営の推進 ②連盟の活動全般における負担軽減を図る</p> <p>【競技】①選手育成・技術力向上を視野に入れた、各種大会の企画 ②地区予選・県大会・上位大会関係業務の円滑な遂行</p> <p>【地域】①選手育成を視点としたトップリーグ・地域リーグの充実 ②7地区の少年連盟と県少年連盟との意思疎通のためのパイプ役としての円滑な業務の遂行 ③登録チーム、登録選手の増加</p> <p>【技術】①関東・全国レベルで通用する選手の育成 ②指導者育成のための研修会の開催 ③県トレセンと地区トレセンとの連携強化 ④審判委員会との連携 ⑤女子の指導者養成 ⑥キッズ年代からの育成</p> <p>【審判】①3級審判員の増員と育成を図る。 ②3級インストラクターの活動の場を増やす。 ③他種別でも活動できる派遣審判員の増員を図る。</p> <p>【記録広報】①正確な情報を迅速に提供</p> <p>【女子】①女子選手の積極的育成 ②女子だけのチームを増やすこと(合同での活動も考慮)</p> <p><数値目標></p> <p>【地域】 各種申込書提出締め切り日の厳守</p> <p>【技術】 関東選抜大会ベスト4以上 ナショナルトレセン10名選出</p> <p>【審判】 3級審判員10名以上の増員(昇級)</p> <p><スローガン></p> <p>【技術】 日常を変えよう</p> <p>【審判】 信頼されるレフェリーを目指して～凡事徹底～</p> <p>【記録広報】 正確に・迅速に・効率よく</p>
<p>2022年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<p>【事務局】①新型コロナウイルス感染症対策の継続 ②ZOOM等を活用した会議運営等</p> <p>【競技】①各種文書の発送、受信の厳正 ②選手育成・技術力向上を視野に入れた、計画的な年間プログラム作成と大会企画・運営 ③JFAのシステムやWEB等を積極的に活用した大会運営 ④県大会におけるオープン参加の拡大を試行</p> <p>【地域】①トップリーグ・地域リーグ等の円滑な運営 ②各地区から出た意見の県少年連盟への吸い上げ ③各委員会事業への協力 ア 競技運営委員会(県大会会場確保) イ 技術強化委員会(県トレセン) ウ 審判委員会(4級更新講習会) エ 広報委員会(地区及び県大会結果の報告) オ 女子委員会(県トレセンへの推薦)</p> <p>【技術】①県トレセン活動の充実 ・年間指導計画の継続的検討と検証 ・トレーニングの質の向上 ②地区トレセンとの合同開催や指導協力 ③指導者の質の向上</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者研修会の設定 ・県技術委員のB級取得促進 ④審判との連携によるたくましい選手の育成 ⑤女子の指導者養成 ⑥グラスルーツ委員会と連携したキッズ年代の交流会 <p>【審判】①審判研修会の計画的実施</p> <p>②インストラクターによる指導・研修の場の拡充</p> <p>③派遣審判員リストの作成と割当部との連携強化</p> <p>【記録広報】①大会運営者・企業との円滑な情報連携</p> <p>②インターネットを活用した効果的な情報共有の効率化</p> <p>【女子】①女子選手の育成事業の開催</p> <p>②地区トレセン女子活動の活性化</p>
<p>目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名</p>	<p>【競技】①計画的な年間プログラムの作成と大会企画・運営</p> <p>【地域】①地域委員会の定期的開催</p> <p>②トップリーグ・地域リーグ等の運営</p> <p>③各種県大会の運営協力</p> <p>④地区の優秀な選手の発掘</p> <p>⑤他の委員会への協力</p> <p>⑥地区の理事会の活性化</p> <p>【技術】①県内トレセン指導者への研修会の開催</p> <p>②ナショナルトレセン研修会などへの参加促進</p> <p>③関東女子トレセンマッチデー、MTMトレセンマッチ、 ナショナルトレセン選考会、ナショナルトレセン、キャ ノンガールズエイト、関東選抜大会</p> <p>④キッズ年代の交流会の開催</p>
	<p>【審判】①実技指導者研修会（各地区審判アドバイザー）</p> <p>②3級審判員研修会（3級審判員のうち希望者）</p> <p>③3級昇格に向けた研修会（3級昇格希望者）</p> <p>④各種県大会の割当・他種別との連携</p> <p>⑤所属審判員への研修関係の情報伝達、参加啓発</p>

5. 女子委員会：女子連盟

2022年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・トレセン制度の充実・強化 ・競技人口の拡大 ・指導者の育成 ・女性審判、ユース審判の育成 3級新規審判員の発掘 ・JFA 普及コーディネーターの活用 ・ゲーム環境の整備(特にU-15, 18 および県リーグ) <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技人口 50 名増 ・女性指導者 D 級 10 名・C 級 10 名増 ・女性 2 級審判員 1 名、3 級審判員 5 名増 ・なでしこひろば開催団体 3 団体増 <p><スローガン> 未来に繋げる！</p>
2022年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・U-13~16 トレセン活動の充実・強化 国体少年女子選抜チームの強化 国体成年女子選抜の強化策再構築 ・普及事業 グラスルーツ委員会との連携強化を図り、登録人口増を目指す ・審判トレセンの充実と底辺拡大 県リーグ等を利用して審判トレセンの充実を図る。ユース審判を含めた底辺の拡大 ・新規MCの発掘 審判インストラクターの発掘
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・トレセン女子 U-13~16 ・U-12 女子トレセンとの連携 ・審判トレセン

6. クラブユース連盟

2022年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・関東リーグへの進出(各年代別強化) ・帯同審判の質の向上 ・全国大会(クラブ選手権・高円宮杯)への出場 <p><数値目標></p> <p>関東大会でのベスト8以上 全国大会への出場</p> <p><スローガン></p> <p style="text-align: center;">未来を担う選手たちと共に！ (高めあい・競い合い・認め合う)</p>
2022年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15 リーグを含め U-14 の強化 ・リーグ戦・ベスト8までの帯同審判の向上 ・栃木国体に向けて、U-15・14 の強化
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15 リーグ・U-13 リーグ(関東・県) ・帯同審判の講習会

7. シニア委員会：シニア連盟

<p>2022年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア連盟の組織化（各年代） ・未登録チームの登録及び参加 ・選手の協会登録強化（各年代） ・関東大会の大会運営 ・関東予選会を突破し全国大会出場を目指す <p><数値目標> 各年代（0-40・0-50・0-60・0-70）の全国大会出場</p> <p><スローガン> 各年代での関東大会を突破し全国大会出場</p>
<p>2022年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア連盟の組織の強化 ・シニアリーグの活性（各年代40、50、60） ・KTFA 第17回関東0-60サッカー大会の開催、大会運営 ・シニアチームの各年代の関東予選会の突破し全国大会出場を目指す。
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア委員会の各年代役員メンバー選出 ・県シニアサッカー選手権大会（0-40, 0-50, 0-60）7月8月 ・県シニアサッカーリーグ（0-40, 0-50, 0-60）4月～3月 ・KTFA 第16回関東0-70サッカー大会の開催 9月

8. 技術強化委員会

<p>2022年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2022 栃木国体+10 年を視野に入れた諸事業の実施 ・トレセン活動のさらなる充実と指導者間の連携 ・栃木 TSG(テクニカルスタディグループ) データ活用 <p><数値目標> 関東トレセン大会各種別 A クラス入り</p> <p><スローガン> 全県一致</p>
<p>2022年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国体強化策の具現化 成年男子：2022 国体チーム強化策 選抜チーム。監督・ スタッフ体制の決定済。 女子：成年選抜チームの発足。 隔年強化の具体策の作成。 少年選抜チーム強化策 栃木 SC レディースを中心としたチームづくり 少年男子：U-16 早生まれ及び U-15 県トレセンの強化 ラージグループからのメンバー選考と強化 ・トレセン改革 県トレセンの行い方の工夫と実践（より充実したものにするために） GK プロジェクト業務委託事業開始と展開 ・各種別の指導者養成及び指導者の掌握 若い指導者の育成とネットワークの形成 若手指導者の養成・強化 ・テクニカルスタディグループの活用及び指導者への還元 県内 TSG レポートの作成 ・各種連盟や委員会との連携、そのための技術委員会組織の再編
<p>目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・U-16 早生まれ・15 県トレセン強化策 ・U-16 女子トレセンのサポート ・新型コロナウイルス感染症に対する感染拡大防止対策をしっかりと行い、選手たちの活動機会を確保するとともに、より効果的なトレセン活動を充実していく。

9. フットサル委員会：フットサル連盟

<p>2022年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関東リーグへの進出 ・全国大会への出場 ・フットサルの普及 ・審判員の養成 ・会場の確保 <p><数値目標> 関東リーグへの進出（関東2部、関東女子） 各カテゴリーでの全国大会出場</p> <p><スローガン> 栃木のフットサルの競技力の向上と普及・振興</p>
<p>2022年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①男女栃木県リーグの競技の充実 ②各年代におけるフットサル大会の運営の充実 ③U-23年代以下の育成・強化 ④普及事業の情報の発信の工夫と促進（県協会HP等で） <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーフットサルフェスティバル ・オープンフットサル大会 アンダーカテゴリー（U-15の部）の開設・普及 ・施設交流大会 ⑤県内におけるフットサルのPR（県協会HP等で） ⑥審判員の育成 ⑦新規役員の発掘、育成と組織の充実 ⑧国体デモスポの開催
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①栃木県フットサルリーグ ②全日本フットサル選手権栃木県大会 ③全国選抜フットサル大会 ④栃木県女子フットサルリーグ ⑤全日本女子フットサル選手権大会栃木県大会 ⑥全国女子選抜フットサル大会 ⑦年代別各カテゴリー（大学、U-18、U-15、U-12）のフットサル大会 ⑧各種普及イベントの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーフットサルの開催 ・オープンフットサル大会（エンジョイリーグ） ・施設交流大会 ⑨審判講習会の実施

10. 審判委員会

<p>2022年度の活動目標</p>	<p>①国体に向け、審判員の増員、レベルアップを図る。また、実働の審判員だけでなく、インストラクターを中心に大会を運営できるスタッフの育成を目指す。</p> <p>②審判トレセンは毎月1回第3日曜日に固定し実施する。講義形式だけでなく、実技研修（プラクティカルトレーニング）を実施する。</p> <p>③スタートアップセンターを実施し、その場を3級インストラクターの活躍の場としても有効に活用し、指導者の資質向上、審判員の底辺の拡大・底上げを目指す。</p> <p>④コロナ対策として種別毎にWebで講習会を実施し、3級審判員を育成する。</p> <p>⑤大学生を対象とする講習会を継続する。</p> <p>⑥国体実施に伴い他県との交流を深める。</p> <p><数値目標></p> <p>①審判員登録数を1級：7名、2級：70名、3級：500名、女子2級：5名 3級：10名</p> <p>②4級：4700名、フットサル：600名、女子審判員：300名を目標に育成する。（中期、長期）</p> <p><スローガン></p> <p>THE CHALLENGE TO REFEREE FRIEND 'S DREAM (審判仲間の夢への挑戦) 十河</p>
<p>2022年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）</p>	<p>（1種）</p> <p>①3級審判員の拡大 県社会人リーグ参加チームから3級審判員を増やし、チーム登録審判員のレベルアップを図る。</p> <p>②over 40 審判員研修会の実施 over 40 審判員を対象にした実技研修会を開催して技術向上を図る。</p> <p>③3級インストラクターの新規増員 チーム登録審判員及び派遣審判員への助言・指導の機会を増やす。</p> <p>（2種）</p> <p>①4級ユース審判員の資格取得・更新の定着を図る。</p> <p>②ユース審判員の育成を充実させる。特にユース3級審判員の増加と、国体に向けてレフェリースクール卒業生の2級審判員昇級と育成を図る。</p> <p>③若手顧問の指導・育成を図る。</p> <p>（3種）</p> <p>①審判研修会の充実（トレセンマッチデーの活用）</p> <p>②若手審判員の発掘と育成（他種別との交流、3級審判養成講習会の開催）</p> <p>③ユース審判員の育成（取得と活動機会の提供）</p> <p>（4種）</p> <p>①3級審判員の増員と育成を図る。</p> <p>②3級インストラクターの活動の場を増やす。</p> <p>③他種別でも活動できる派遣審判員の増員を図る。</p> <p>（女子）</p> <p>①県リーグ、U-15 リーグ参加チームから3級審判員を増員させ、リーグ全体のレベルアップを図る。</p> <p>②ユース（U-18、U-15）年代の審判員増員と育成。</p>

③3級審判向け競技規則研修会の実施。

④公式戦決勝を女子審判員4名で実施。

(シニア)

①各チームに、審判資格取得者を4名以上確保する。そのうち、1名以上3級以上の審判員を確保する。

②シニアの各カテゴリー(0-40から0-60まで)において、最新のルールを正しく理解させ、本県開催関東大会の審判割当を実施。

(クラブ)

①派遣審判員として活動できる人材を発掘する。

②中体連と合同の4級審判資格新規取得講習会を開催する。

③3級を目指す4級審判員を発掘し、指導育成する。

④チーム帯同審判員を集めた審判研修会を実施する。

⑤組織の見直しを図る。

(フットサル)

①実働審判員の確保

②フットサル審判員の能力向上

③上級審判員候補の発掘

(指導・育成・インストラクター)

①レベル合わせ実施と新アセスメントレポート様式導入。

②計画性を持ったアセッサー割当て及びkick offシステムでの割当の実施

③インストラクタースキルの修得及びアセッサー任務の義務化

④2級昇級候補者の強化

⑤3級インストラクター強化研修会の実施

⑥レフェリースタートアップセンターによる4級審判員育成

(割当部)

①kickoffサイトの継続的有効活用

インターネットやスマートフォン等を活用して審判員、インストラクターのスケジュール情報を共有し、効率の良い審判割当、アセッサー割当を行う。

kick offシステムでの審判割当、また必要事項を送信する。(健康チェックシートや連絡事項など)

kick offシステムでのアセッサー割当を検討する。(一部試合)

kick offシステムで栃木県内の2・3級審判員に派遣協力調査を行い、派遣審判員を登録制度化するように検討する。

②各種別の連携強化

種別の垣根を越えて協力し、様々な種別に派遣することで審判員のレベルアップに貢献する。

また、派遣審判員を対象とした研修会を開催し一体感をもって底上げする。今年度より開幕前研修会を審判トレセンの位置づけで栃木県内の審判員に参加を促す。

③在野の審判員の発掘

級に関係なく派遣審判員を目指す人材の発掘、育成をする。

(スタートアップセンターを軸に4級を底上げできるようにし、県内でアクティブに活動できる人材を増やす活動を行う。)

県協会ホームページに掲載し、幅広く宣伝できるように工夫する。

Kickoffシステムを使用して県内の4級審判員に直接、スタートアップセンターの案内を送信して参加者を増やす。

Kickoffシステムを使用して栃木県内の2・3級審判員に直接アプローチしてサッカーの審判員協力を促す。また国体運営やその他協力を要請する。

また、各種別からも積極的に活動したい方を呼びかけるように
お願いをする。

(登録部)

- ① 新規取得講習会、および登録更新講習会の開催情報をKICKOFF
サイトと栃木県FAのホームページを活用して周知する。
- ② 講習会の開催時期や回数、方法の見直しを図る。

<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<p>(1種)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①チーム審判員を対象にした3級昇格講習会を実施する。 ②自治体職員サッカー大会を用いover 40審判員を対象にした研修会を開催する。 ③3級候補者を対象に競技規則や技能の向上を図る育成研修会を開催する。 <p>(2種)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ユース審判員 <ul style="list-style-type: none"> ・ユース審判員の上級資格取得の環境整備を行う。(3級取得講習会をオンラインで実施する) ・4級取得講習会を中部・北部・南部で行う。4級更新については、e-ラーニングを中心とし更新不備とならないような情報を提供する。 ②顧問 <ul style="list-style-type: none"> ・若手顧問を第2種の試合において積極的に割当して指導する。 ・若手顧問を指導して、2級審判員や3級審判員に昇級させる。 <p>(3種)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①審判研修会の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・10月ー中学校県新人大会最終日 ・12月ー下野杯中学生サッカー大会準々決勝4試合 ・3月ー東日本中学生マロニエフェスティバルへの協力 (他種別との交流を含めて) ・トレセンマッチデーへのインストラクターの派遣 ・オンラインを活用しての3級審判養成講習会の実施 ②審判員の発掘と育成 <ul style="list-style-type: none"> ・他種別の審判員との交流を推進する。 (3種→2種・1種へ) (4種→3種へ) ・地区担当者との連携強化(オンラインの活用) ③ユース審判員の育成(取得と活動機会の提供) <ul style="list-style-type: none"> ・トレセンマッチデーや下野杯の副審等、活動機会の提供 (定期的な会議の実施) <p>(4種)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①審判研修会の計画的実施 <ul style="list-style-type: none"> ・実技指導者研修会(各地区審判アドバイザー) ・3級審判員研修会(3級審判員のうち希望者) ・3級昇格に向けた研修会(3級昇格希望者) ②インストラクターによる指導・研修の場の拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・県トップリーグ ・新規4級審判資格取得講習会(実技指導) ・3級昇格実技審査 ③派遣審判員リストの作成と割当部との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・各種県大会の割当・他種別との連携 ・所属審判員への研修関係の情報伝達、参加啓発 <p>(女子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ユース審判員の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・5月4級新規取得講習会の実施(県央・県南・県北) ・高体連女子、クラブチームと連携を図り、リーグ戦に於いての実践と継続的な指導 ②研修会の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・新規3級取得WEB講習会の実施 ・3級取得者向けルール講習会の実施 ③女子公式戦決勝4名女子で実施
-----------------------------	---

(シニア)

- ① 審判の取得・更新を積極的に図る。
 - ・シニア主催新規4級審判資格取得講習会の実施
 - ・登録チームに、審判員の確保を促す。
- ② 本県開催関東大会の審判割当
 - ・シニア委員会での研修（最新ルール解説、派遣協力依頼）
 - ・リーグ戦や選手権大会での実技研修
 - ・3級審判員の育成

(クラブ)

- ① 派遣審判員として活動できる人材及び3級を目指す審判員を発掘し、指導育成する。(各チーム3級審判員帯同への推進)
 - ・日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県大会
 - ・栃木県U15・13リーグ
 - ・高円宮杯日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県大会
 - ・3種リーグチャンピオンシップ
 - ・下野杯争奪県下中学生サッカー選手権大会
 - ・他 各種別各大会
- ② チーム帯同審判員を集めた審判研修会を実施する。
 - ・日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県大会最終日
- ③ 組織の活性化を図る。
 - ・新たな体制・取組みを実施

(フットサル)

- ① 各種（県・地区大会）大会帯同審判員へのアプローチ
各種大会帯同審判員への技術指導
審判活動希望者募集の為の広報活動（県協会HPへの掲載等）
県リーグ各チーム帯同審判員への3級審判員への推奨
- ② 県リーグ担当審判員の主審技量の向上
担当審判員研修会、他県リーグ・審判交流等を通じての
競技知識の向上
各種大会におけるインストラクターによる実技指導
- ③ F3昇級の為の育成コースの受講者の増員
F2昇級候補者の育成

(指導・育成・インストラクター)

- ① 新様式アセスメントの導入のためのレベル合わせ研修会を複数回実施する。
- ② 各インストラクター最低3試合以上のアセスメント実施を義務化する。各種別及び各部と随時情報交換を行い、審判員育成指導の連携を図る。
- ③ 割当部、各種別及び各部と連携を図り、アセッサーの早期割当てに努め、強化対象審判員の継続的指導を実施する。
- ④ インストラクタートレセンによるチュータリング・IT・アナリシス・プラクティカル等のスキル修得促進。受講の義務化等資格要件制度をあわせて検討する。
- ⑤ 2級インストラクター昇格候補者の強化研修を実施する。
- ⑥ 経験の浅い3級・4級審判員の育成のため、レフェリースタートアップセンターを継続開催する。
- ⑦ 2級審判昇格候補者を中心に3級審判員の強化対策を検討、実施する。

1 1. グラスルーツ委員会

<p>2022年度の活動目標</p>	<p>〈全体〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各連盟や委員会、種別を超えて多くの人に関わり、普及事業を提供する ・サッカー未経験者とチーム未所属者の普及事業への参加者数の増加 ・フェスティバル以外の普及イベントの企画（コロナ禍でも実施できるような企画含む） ・いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会開催地区との連携 ・サッカーの出会いから、登録拡大推進につなげる。 <p>〈キッズ巡回指導〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政との連携 ・巡回先の拡大と受益者負担への働きかけ ・TOYATAとの協働による指導内容の充実 ・巡回指導スタッフの発掘 <p>〈フェスティバル〉（キッズ・女子）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区と一体となったフェスティバルの開催 ・地区フェスティバルの内容の充実（チーム対抗戦のみにならないような工夫、親子サッカー等の提案） ・各種別との連携 <p>〈なでしこひろば〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とちぎフットボールセンター等を活用したなでしこひろばの開催継続と県内各地域で実施のなでしこひろばとの連携 <p>〈キッズリーダー講習会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・短大・専門学校等での開催、女子登録チーム対象の開催 ・キッズ含む普及の重要性を発信する講習会・研修会の開催 <p>〈女子サッカーデー〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容の検討（全ての世代が楽しめる企画）
	<p>〈数値目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち「延べ23,000人」との交流 ・サッカー未経験者「延べ500人」の参加 ・キッズリーダー講習会の開催（15コース、300名） ・キッズ巡回指導360回 ・普及の重要性を発信する講習会・研修会等の開催（2回） ・なでしこひろばの開催（通年）※登録拡大推進事業
	<p>〈スローガン〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栃木サッカーの発展はグラスルーツから ～だれもがサッカーの楽しさに触れられるように～

<p>2022年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者養成（キッズリーダー、キッズインストラクター等） ・コロナ禍でも実施できるイベント内容の検討 ・JFAフェスティバル（キッズ・女子・障がい者等） ※県内開催地・対象者の検討（目的の整理等） ・地区フェスティバル（未経験者へのアプローチと参加者の増加⇒各種別での継続へ繋げる） ・なでしこひろばの継続～発展（女子の小・中学生の登録者数増に繋げる。レベル別の開催検討など。） ・各地区フェスティバルのサポート（年2回以上の開催を目指す） ・フェスティバルに関わるスタッフの発掘 ・ユニクロキッズフェスティバルの開催に向けた準備 ・各種別間交流事業の充実 ・いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会開催地区との連携による普及活動
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・JFAキッズサッカーフェスティバル ・JFAグラスルーツフェスティバル ・JFAレディースガールズフェスティバル ・JFA女子サッカーデー ・キッズ巡回指導 ・キッズリーダー養成講習会 ・地区主催キッズサッカーフェスティバル ・栃木SC・栃木シティFC・ヴェルフェ矢板等の巡回指導とキッズ事業への参加 ・キッズ研修会 ・なでしこひろば ・障がい者サッカーフェスティバル（3回）